

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・1117 NO45

校長 伊波喜一

限りある 命大事と 愛おしむ 心の叫び 声に託して

10月末に第七中学校の3年生が来校し、「大地讃頌」と「命あるかぎり」の2曲を混成4部合唱してくれました。「命あるかぎり」の歌詞が素敵で「どうして君は命なんかいららないなんて、言うんだろう。命はなくしたら二度ともらえない」。だから、「僕は生きてく。この命あるかぎり。この電池が切れるその瞬間（とき）まで、精いっぱい生きるよ。一度しかない人生を」という内容でした。言葉の意味は十分に分からなくても歌の心が伝わってきて、子ども達もシンとして聞いていました。生徒達の詩の解釈に声が重なり、心を揺さぶられました。47歳になる元世界王者の辰吉丈一郎さんは、現在4度目の世界王者を目指しています。曰く「人間あきらめたら終わり。人生、一回しかないんですよ。やりたいことをやる。生きている限りは努力せんと、もったいない」と。周りからの評価は大事ですが、周りに振り回される生き方は愚かです。自身の一生をどう生きるのか、それは自身で決める以外にありません。決めたら、先ず歩く。歩き続ければ、その後ろには必ず道が出来るのです。